参考資料1

令和２年度 第１回 屋久島世界遺産地域科学委員会
議事要旨

日時：令和２年６月26日（金）　9:00～12:00
場所：Web 会議方式

●議事（1）前回会議の議論の整理について（確認）

・昨年５月の豪雨に対するその後の対策や検討のあり方について、「資料１」議論の整理での回答では、屋久島の世界遺産として今後どうしていくのかが全く分からない。管理計画の中で制度や枠組みの構築も含めて検討すべき。時間が経過すると記憶や印象が薄れたり、コロナ禍の影に隠れたりしてしまう。（土屋委員）

・管理計画に口永良部島の噴火の話も入れて、データの取り方を検討したほうがよい。（柴崎委員）

・災害対策基本法に基づいて登山者への対応を屋久島町が考えるべき。科学委員会で、委員は科学的な知見を提供するが、それに基づいてどう管理するのかは、行政が判断しなければいけない。（井村委員）

・科学委員はマネジメントに何も意見を言うべきでないというわけではなく、ガバナンスのあり方、管理体系のあり方等についてコメントするのは大事な役割である。（柴崎委員）

●議事（2）屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況について（報告及び意見聴取）

・本年度より、地域連絡会議幹事会と「屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部のあり方検討業務」は関わり方が変わったのか。（柴崎委員）

●議事（3）令和2年度屋久島世界遺産地域モニタリング調査等予定表について（報告及び意見聴取）

・評価基準「ID23レクリエーション利用や観光業の実態」及び「ID25避難小屋トイレ周辺の水質」は、情勢を鑑みて実施できない場合あるが、見通しを知りたい。（柴崎委員）

・「ID23レクリエーション利用や観光業の実態」の調査結果を、山岳部あり方検討会でのモニタリングへ反映できるよう、モニタリング項目を変更する余地はあるのか。（柴崎委員）

●議事（4）令和元年度世界遺産地域モニタリング調査等結果（報告）

・気象庁アメダスデータの収集・分析で「日照時間については小瀬田で増加、尾之間で低下傾向だった」と記載があり回帰分析の結果が記載されているが、小瀬田のP値（P=0.208）で有意差があると言えるのか。（柴崎委員）

・令和元年度のモニタリングの中に、前年度に高塚山の北側で下層植生がほとんどなくなった地域に柵をして経過を見るという項目があったが、結果がどうあったのか教えてほしい。（荒田委員）

●議事（5）令和2年度世界遺産地域モニタリング調査等計画（意見聴取）

・質疑なし

●議事（6）令和2年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議について（報告）

・猟友会の年齢構成の高齢化が指摘されているが、社会経済面についてヤクシカWGで、どのように議論されていくのか。担い手の話などは、猟友会だけで解決できない話もあるのでワーキングに社会科学系のメンバーを加えることも考慮し、中長期的に検討されたらよい。（柴崎委員）

・シカの捕獲数を性比別に見ると、雌は平成26年の3分の1になっているので、今後減らし続けられるかどうか不安。サルについては、文献調査またはモニタリング、或いは今までの調査結果をこの委員会でも集約するかどうかなど、スタンスを明確にしてほしい。（松田委員）

・ヤクシマザルは屋久島の生態系の中でフラッグシップといってもいい種であり、ヤクシマザルについての研究が西部だけに限定されている。西部以外では、かなり捕獲しているが、その影響がどう及んでいるかを判断する科学的な資料はない。多少科学的な判断ができるように資料を整えたほうがよいという考え方もできる。今後行政と調整をしていくという課題と思う。（矢原委員長）

●議事（7）山岳部利用のあり方検討会について（意見聴取）

・新型コロナウイルスの件で今年度調査実施が遅れていることもあり、「ID23レクリエーション利用や観光業の実態」のモニタリングの内容の充実、変更をお願いしたい。可能ならば、屋久島山岳ビジョンに入るモニタリングの議論が終わった来年度に延期できないか。しっかりとした調査、充実した内容の調査ができるような形にした方が良い。（土屋委員）

・観光の利用や満足度等の調査など、前回は平成26年と27年と2年間やっていた気がするが、今回も2年間やるという予定か。それとも今年度または来年度の単年度か。（柴崎委員）

●議事（8）高層湿原保全対策検討会について（意見聴取）

・管理計画への反映がこの検討会の一つの目的と思うが、保全した方がよいという暫定的な方針は、このスケジュールだといつの段階で出るか。管理計画に反映させるような提言のようなものは、当面出せないということになるか。（土屋委員）

・高層湿原保全対策のとりまとめは令和4年度を目指すべきだと考えている。それを科学委員会にご提案し、管理計画に盛り込むかどうかは、科学委員会で判断いただくことと考えている。（下川委員）

●議事（9）屋久島世界遺産地域管理計画及び地域連絡会議について（報告）

・山岳部利用あり方検討会は、管理計画改訂作業部会に機能的に引き継ぐものではないため、引き継ぐような場がなくなってしまうのは、かなり重要な問題。何らかの形で検討を継続してほしい。利用について、エコツーリズム推進協議会、山岳部保全利用協議会、山岳部利用のあり方検討会は役割分担をしながら議論をしてきたが、今後は、この3つの機関の統合のようなことを考えていく必要がある。地域連絡会議が、エコツーリズム推進協議会だけと共同開催するというのは非常に疑問に思う。（土屋委員）

・屋久島は世界遺産とエコパークの二重登録地域だが、他の世界中の二重登録地域では管理計画が協働してつくられるという場合が多い。利用と保全の両方を考えるという意味では、エコツーリズムやあり方検討会も含めた方が、収まりはいい。その可能性をなくすのはもったいない。（松田委員）
・エコパークの枠組みの活用に関して、人類の普遍的価値として将来取っておくものをしっかり残そうというコンセプトに対して、生物多様性や生態系を保全しつつ、一方でそれを積極的に利用して人間社会に活用していくというコンセプトがあるので、今あり方検討会で議論している課題と整合性は高いので、行政にお願いしたい。（矢原委員長）
・エコツーリズム推進協議会や山岳部利用協議会をあり方検討会と統合するのは難しいという話があるが、今の管理体系は望ましくないものであり、統合もしくは簡素化、委員の情報共有ができるような仕組みを構築しないとうまくいかないのではないか。（柴崎委員）
・「資料9別添」図の配置を変えたほうがよい。屋久島山岳部保全利用協議会、科学委員会、花之江河等については高層湿原保全対策協議会等で議論されているので、屋久島山岳保全利用協議会は中心に置く。屋久島学ソサエティも蓄積はあるが、行政とつながりの強い民間的な組織をここまで色を変えて強調するのは公平ではない。多様な活動があることもわかるようなつくりにしてほしい。（柴崎委員）
・「資料9別添」図の配置は確定したものではないと理解した。高層湿原保全対策検討会は科学委員会の中の検討会ではないか。山岳利用のあり方検討会も科学委員会の中の検討会と理解しているが、そのあたりを皆で合意形成をしたほうがよい。（下川委員）
・「資料9別添」図の配置に関して環境省と林野庁でもう一度定義を整理していただきたい。屋久島学ソサエティに関しては行政の機関ではなく、独自の地域学会として屋久島の中での課題の学び合いと合意形成に寄与しているので、行政の機関とは別にそれを補完する形で工夫して、しっかりした位置づけにしたほうがよい。（矢原委員長）
・意見を自由に発言するというのがソサエティの長所だと思う。それはガバナンスを考えると別個に書いておかないといけない。「資料9別添」の図は、屋久島学ソサエティとは全体を統括するような感じに見える。配置は下ではなくて横にして屋久島学ソサエティが関連している、もしくは意見を言っているような形にしたほうがよい。（土屋委員）
・屋久島学ソサエティは屋久島町と連携してつくってきたという経緯もある。完全に民間というわけでもないという点を補足したい。（矢原委員長）
・屋久島学ソサエティはボトムアップで支えているというのをはっきりさせる意味では下でよいと思う。屋久島学ソサエティは民間ととらえてもよいし、むしろ民間のものを位置づけてもらうことが素晴らしい。（松田委員）

●議事（10）その他

・新型コロナウイルスの影響で観光が大打撃を受け、今後どれだけ続くかという長期戦を考えなければならない。屋久島は離島であるため、一次産業に関する生業部分の振興が今まで以上に重視され、リスク回避のひとつになる。（柴崎委員）
・低地の照葉樹林は重要な問題である一方で、いかに里山と島民の人たちの関係性を復活させるかという利用の側面から、歴史的な経緯も含めて考えなければならない。保全も重要だが、里については住民

が関わりながら持続的に利用するということを考えていく時期かと思う。（柴崎委員）

・低地照葉樹林保全は大変大事なことだと思う。屋久島の低地の照葉樹林は現在大きく状況は変わっている。歴史の流れを踏まえつつ保全のあり方や方向性を検討するというのは非常に大事で、モニタリングや状況調査は非常に重要である。（日下田委員）

・低地照葉樹林の中で特に沢筋の部分に菌従属栄養植物が多く、世界的に見ても非常に貴重なホットスポットだということが分かってきたので、保護対策を行政と相談しながら考えたい。（矢原委員長）

・保全をあまり里で重視し過ぎるとかえってかつてのサイクルを見失う可能性もある。利用をきちんと促進していくような形でやらないとまずいのではないか。保護思想に基づき過ぎると非常に危険ではないかと思う。（柴崎委員）